
幻のケムケムダンス

ミッシ・ゴッシュ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻のケムケムダンス

【Nコード】

N5308F

【作者名】

ミッシ・ゴッシュ

【あらすじ】

幻のケムケムダンスとは一体何なのだろう……。

やあ、今日は天気が良いね、むしろ暑いくらいだ。こつも暑いとジャングルに行った時の事を思い出すよ。

突然だけど、君は『ケムケムダンス』って言う踊りを知ってるかい？

まあ知らないだろうね。誰も行った事の無いようなジャングルの奥地に住んでいる部族の踊りだからさ。

ジャングルの中には数え切れないくらい沢山の部族が暮らしているんだ。

その中で僕が会いに行った部族の名はクルソ族。未だに裸で暮らし、猪を素手で仕留める様な野蛮で無知な集団さ。

文明の一切を拒み続けた彼らは神だの精霊だの、そう言った迷信めいた存在を過去から現在に至るまでずっと信じているんだ。

そして、ケムケムダンスってのは、森の精霊に何か　でかい猪が捕れますようにとか、息の良い猪に出会えますようにとか、そんなをお祈りする時に踊るんだ。

でもね、ケムケムダンスにはそれなりに流儀があるんだ。まあ、あつて無いようなもんだけどさ。僕は最初、踊らせて貰えなかったんだ。

お前は流儀を知らないだろ？　だからまだ駄目だってね。最初は

やっぱり頼んだんだよ。でも踊らせてくれなかったんだ。だから…。

僕が何の為にこんな僻地に来たと思ってる！ 良いから踊らせろよ！

そう怒鳴ったらいつら般若みたいな顔して……思い出すだけでも嫌になるよ、本当に酷かったんだ。

僕が土下座して、これは日本で最上級の謝罪だと言ってても全然聞かないんだもん。参っちゃうよね。

彼らはケムケムダンスに並々ならぬ誇りを持っているんだ。騎士道に近いかな？ 彼らは騎士なんて存在知らないだろうけどさ。

許して貰うのに2ヶ月近く掛ったよ。それから踊りを教えて貰うのにはさらに1年以上掛ったんだ。

ようやく彼らが僕にケムケムダンスの何たるかを教えてやるうかって時にクルソ族の一人の若者がさ。あろう事が懐中電灯を部内に持ち込んでさ。族長がかんかんに怒ってね。その若者をケムケムに捧げたんだ、生け贄としてね。

あつ、ケムケムは精霊の名前だよ『森の精霊ケムケム』名前だけ聞くと可愛らしいだろ？ だけどクルソ族の伝承では凄く恐ろしい精霊なんだ。

森を歩く不屈き者を木の根で串刺にして森の猪に食べさせるんだ。クルソ族の若者はその伝承通りに殺されたんだ。

僕も下手したら同じようになっていたかも知れない。そう思うとクルソ族は意外と慈悲深いのかもね。

ケムケムダンスってのは精霊に祈りを捧げる時に踊るってのは話したよね？ 恵みを乞うには貢ぎ物があるんだ。

はは、君は感じが良いね。うん、そう。その時は若者が選ばれたんだ。まあ仕方ないよ、自業自得って奴だね。

僕はその時初めてケムケムダンスを目の当たりにしたんだ。話しは聞いていたけどね、凄かったよ。

男も女も爺も婆も子供も入り乱れてさ、狂喜の宴って奴？ 思い思いに踊るんだ、一心不乱にね。何かに取り憑かれたように陶醉してた。

もちろん僕もさ、だって憧れのケムケムダンスを踊れたんだよ？最高の気分だったさ。まあ本当の楽しみは、その後だったけどね。ケムケムダンスを踊った後、僕らは猪になった。猪の毛皮を被り、泥で化粧してね。ははは、君は本当に感じが良いね。

そう、僕らは猪になったんだ ……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5308f/>

幻のケムケムダンス

2010年10月20日15時16分発行